

平成25年度 【 学園研究費助成金< B > 】 研究成果報告書

学部名 生活科学部

フリガナ タキザワ アイ
氏名 滝澤 愛

研究期間 平成25年度

研究課題名 20世紀初頭におけるフランス女性のファッションとパターンの変容 —中流女性における身体矯正と衣服設計の関係—

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	滝澤 愛	生活科学部	講師
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字~300字程度で記述)

20世紀初頭のフランスに於いて、女性服は従来型のコルセットによる身体を拘束した曲線的且つ立体的衣服構成から直線的・平面的衣服構成へと変化していく。その時代の衣服について、服飾史や社会学的観点からの研究は数多くあるが、被服構成学的見地から分析する研究は殆どされていない。また、従来の服飾史研究では上流階級向けの衣服を中心に、中流階級の女性には焦点が当てられてこなかった。そこで本研究では文化ファッション研究機構の支援によって平成24・25年度に行ってきた研究をより掘り下げ、身体拘束具と衣服設計の関係と、服飾史で言われているコルセットの解放が一般庶民の女性においてどの時代に一般化したのか、またその解放による衣服構成の変化がどうあったのか明らかにする事を目的としている。

2. 研究方法等 (300字程度で記述)

- ・20世紀初頭フランスで発行されたモード誌の中で実用的志向が高く中流階級女性を購読対象としていた *La Mode Pratique* (以降 *LMP*) を資料とし、Bibliothèque nationale de France(フランス国立図書館)、Bibliothèque Forney (パリ市立フォルネイ図書館) に於いて主に身体拘束具について記載されている記事・広告を調査、分析する。
- ・*LMP* に付録されていた実物大パターンのカッティング等、CAD等のソフトを使用し構成学的に分析する。
- ・身体拘束具の変遷と実物大パターンによって分析された時代毎の衣服設計との関係を、衣服の空隙値等から分析し、それらの関係が構成学的にはどうであったかを明らかにする。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

先ず、1900年代初頭の中流階級女性における衣服パターンの変遷の実際を捉えるため、パターン調査を行った。資料は同時代にフランスで発行されており、実用的志向が強く、中流階級の女性に広く購読されたパターン付録付き婦人ファッション誌、*LA MODE PRATIQUE*のフランスの国立図書館とパリ市立図書館に於いて閲覧できた全ての付録パターンである。期間は1900年から1928年までに絞り、その期間の1291点のパターンを資料とし調査を行った。本研究では、その中から成人女性用上着のパターン158点を選別し、更に流行のシルエットをより反映しやすい衣服アイテムであるジャケットのパターン40点を抽出した。そして同時代に流行したシルエットの変化を、カッティング形状やサイズ展開の推移から分析することにより、ジャケットパターンの時代変化とその特徴を捉えることとした。その結果は1900年から1904年までのパターンには大きく取られたダーツによってウエストが細く強調されるものであったが、その傾向は徐々に薄れ、1910年以降にはジャケットの前身頃のパターン中にダーツが消え、脇線も直線的なカッティングへと変化した。そのような顕著なカッティングの変化により、それまでの女性的且つ曲線的なシルエットの衣服から直線的なものへと変化をした。また、これらのパターンをCADソフト(クレアコンポ)に入力し、衣服上のバスト、ウエストサイズを測定した。このように衣服のパターン、シルエット、ダーツ、中心線、脇線などのカッティングラインの時代変化を定性的に分析した後、次に雑誌内の衣服設計関連記事の際に度々記載されていたボディサイズ表中のバスト、ウエスト、ヒップのグレーディングピッチの経年変化を数量的に分析した。結果、ヒップとバストに対するウエストの比率は1917年～1920年に急速に増大することが明らかになった。同時に、サイズごとに加減されるグレーディングの実際を捉える事が出来た。

4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①パターン	②フランスファッション	③デザイン	④カッティング
⑤サイズ	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもの数件を記載。)

第5回国際デザイン学会連合国際会議(IASDR2013)(2013年8月26日～8月30日芝浦工業大学豊洲キャンパス)において学会発表をした。

発表者名：○滝澤愛、大塚美智子(日本女子大学)、発表標題：Changes in French Women's Fashions and Patterns at the Beginning of the 20th Century、学会名：The 5th International Congress of International Association of Societies of Design Research (IASDR)、発表年月日：2013年8月27日

今後は他の階級女性の衣服とも比較検討しながら被服構成学的見地で研究を進める予定である。